

平成 26 年度 第 2 回碧南市図書館協議会 会議録

1. 日 時

平成 27 年 3 月 26 日（水）午後 2 時～午後 2 時 50 分

2. 場 所

碧南市民図書館 2 階会議室

3. 出席者

- (1) 出席者 栗屋誠陽、水野利亮、杉浦あさの、宮本美枝子、油谷修子、杉浦正勝、榊原周治、神谷猛、鈴木政枝（欠席者 1 名）
- (2) 事務局職員 教育長 高松透、教育部長 金沢宏治
文化創造課長 小笠原恵三、市民図書館副館長 関由香、市民図書館課長補佐 海老名晴美、同係長 鈴木裕之
南部分館長 大橋幹広、中部分館長 長谷川有里

4. 傍聴者 なし

5. 協議内内容

- (1) 会長あいさつ
(2) 報告事項

①平成 26 年度図書館の事業実績（中間報告）について、各館の状況を事務局が説明

ア. 各館の行事報告

<本館>

定例のおはなし会は参加者が増加しているが、おひぎにだっこのおはなし会、絵本の時間などの未就園児向けの行事は、昨年度まで右肩上がりだったものが今年度は若干の減となっている。市内の子どもの出生数が少し減っていると聞いているのでそれが原因かと思っている。それも踏まえ、来年度は『子ども読書活動推進計画<第三次>』を策定予定であるため、併せて原因などを調査して対策を考えていきたい。

定例行事はやや減少しているが、その中で今年度 3 年目となった小学生を対象とした「図書館を使った調べ学習講座」の参加は伸びている。

昨年度は芸術文化村 20 周年記念ということで、大掛かりな行事を含め、毎月たくさんの行事を行っていたために単純な比較が難しいところである。

今年度は図書館のキャラクターである「へきにゃご」の着ぐるみを寄付していただいたことを受け、毎年行っている秋の読書月間を「へきにゃごまつり」と名称を変更して行った。また、昨年度報告時の指摘を受け、行事一覧に碧南の図書館友の会主催の行事を加えた。バザーについては、昨年度は 20 周年のからみで年間 2 回行ったが、今年は例年通り 1 回の開催となった。しかし参加者や売り上については、昨年度と遜色ないほどの盛況であった。

<南部分館>

定例行事について、参加人数に増減がある。全館の傾向として、資料の貸出数が減ってきているので、いままで図書館に足を運ばない人にも来ていただくために、定例行事以外にも目新しい行事を心掛けた。その中で、手品を取り入れた行事では、用意していた材料が足りないほど盛況なものもあった。

また、南部プラザは今年から選挙の投票所となっているため、普段は南部プラザに来ない人へのPRとして、へきにやごの着ぐるみを登場させ、チラシを配るなどした。引き続き対外的なPRを含めて考えていきたい。

<中部分館>

定例行事の参加については、横ばい状態である。やはり参加してくれる人がそのまま貸出につながらないのが問題である。

行事の中では「折り紙デコ」が盛況だった。利用者に折り紙を作成してもらい、館内に飾るのだが、最終的に張り出す場所が足らなくなるほどだった。

イ. 貸出冊数等について報告（4月～1月末までの中間報告）

貸出冊数は本館で-6.1%、南部分館-2.4%、中部-10.3%と減少しており、公民館図書室を含め、全館では-6.4%となっている。

利用者数については図書館で資料を借りた方の人数であるが、こちらも全館で-5.4%となった。また、入館者は南部で若干増えているが、全体的には減少となっており、全体では-3.1%である。

昨年度は20周年記念で様々な行事があったが、今年は通常通りとなっている影響もあるかと思うが、ここ数年は毎年緩やかに減少傾向にあり、貸出数や入館者数が伸び悩んでいる。インターネットの普及も影響はあるかと考えられる。来館しなくても資料の検索、予約が可能であるため、入館者の減少に繋がっているのかもしれない。

最近の状況として、市内にあった書店が閉店し影響があるのか、地図や旅行のガイドブック、CDを求める利用者が増加している。しかし、ここ数年はこれらの資料をあまり購入できていないという現状があり、人気のある資料は何十人も予約待ち状態になっているのも、貸出が伸び悩んでいる原因のひとつかもしれない。

だがこういった貸出だけでなく、前述のように利用者の興味を引くような行事等を活用して、“そこへ行くのが楽しくなるような図書館をめざして”のスローガン通り、気軽に足を運んでいただけるような図書館を目指していきたい。

（3）質疑応答

委員：利用者の減少の理由はいま言われたようなことだと思うが、碧海5市については同じように減少傾向なのか？

事務局：どこも減少傾向にある。微減傾向ながら、かろうじてキープしているところもあるが、そういった図書館は資料費が豊富である。

委員：原因で一番大きいのは、子どもが減ったということではないかと思うが、他市図書館の図書館協議会の質疑で子どもの減少、ネット通販の普及、などが原因として挙げられていた。碧南も同じような状況なのではないか。インターネット予約ができるというが、どれくらいの数があるか。

事務局：正確な数字は思い出せないが、インターネットからの予約の数の多い。

委員：人気のある本の扱いはどのようにしているのか？望んだ時に棚にないが何冊購入しているか？

事務局：1冊あたり、8～10件予約が入ると2冊の購入を検討するが、4冊以上は複本を購入しないようにしている。その代わりに、市民に読み終わったベストセラー本を寄贈してもらえないかと呼びかけている。予想に反して寄贈してくださる方が多くいらっしゃるため、大変助かっている。

委員：碧南広報に「今月この1冊」という本の紹介コーナーがあるが、これは年齢対象を考えてやっているのかどうか。また、その人の好みで書いているのか。司書が書いているのか？

事務局：司書が持ち回りで担当している。本人の好みだけでは偏るので、既出の状況を見て小説が続かないようにとか、年齢対象も少し変えるように心がけている。

委員：広報に載せたそれらの本は貸出されるのか？

事務局：普段だと動かない本も動くこともあるが、反応が薄いこともある。

委員：県内の新しくできた図書館で窓口業務も委託しているようだが、西三河の状況はどうか？

事務局：安城市が新館計画中である、ここは図書館部分については直営でやると明言している。刈谷市、知立市は直営、高浜が全面委託（TRC）、西尾市中央館は直営だが、一色が委託だったかもしれない。蒲郡市は委託だが、以前勤めていた人がNPOを立ちあげ、そこで運営をしている。

委員：最近では小牧市が新しく開館する図書館が委託と聞いているので、将来はそちらが主流となっていくのかとも思う。

委員：『アンネの日記』の切り取り事件以降、いたずらや切り取りなどの状況はどうか。

事務局：クレームトラブル記録集というものを残すようにしているが、最近では資料への被害は少ないが、最近本館ではトイレに関するトラブルが多い。

資料に関しての被害は、岐阜県図書館の事例として性同一性障害にかかわる本の問題があったが、当館でも大丈夫か調査したが問題はなかった。

愛知県図書館からそういった情報が回ってくるようになってきているので、その都度確認している。

南部では特に問題なし。

中部では、週刊誌のパズル欄に書き込みがあったが、対処をしたところなくなった。

委員：注意を促す張り紙などは、客観的な文言を心掛けると良いと思う。「困っている」「迷惑です」というと愉快犯は調子に乗るのでは。トイレに張り出してある「職員が巡回します」といったもののほうが良いと思う。

(4) その他

事務局：2点報告します。今年度10月に、着ぐるみを寄付していただいた。当初はどれくらい活用できるか心配であったが、半年の間に全館で35回出動している。(1日複数回出たものもカウント)。イベントの盛り上げや、PRに活躍している。

2月に臨時休館をして、図書館システムを変更した。前のシステムのOSが古く、セキュリティ上問題がありメンテナンス不可となったため。HPもリニューアルしているのでぜひご覧いただきたい。新しいシステムではスマホ対応が可能となった。

教育長：入館者数、貸出数が減ってきている。社会的な現象だと思うが、自分も先日電子書籍を買った。字が大きくなるとても重宝している。字が拡大でき、また手軽であるため便利。図書館に来る回数が減ってしまった。しかし図書館に来て、たくさんの本を閲覧する楽しさというものがあると思う。これからも愛される図書館を目指していきたい。みなさんのご協力をお願いいたします。

1年間、ありがとうございました。